

## オ 高等部第1学年重複学級の取組

### (ア) 付けたい力

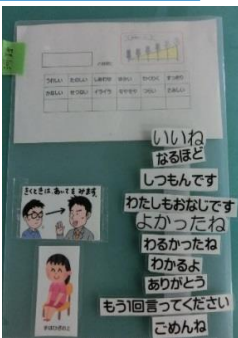
- 相手の話を聞く，自分の気持ちを相手に伝えるなどのコミュニケーション力
- 見通しをもって行動する力
- 集団の中で任された仕事を，責任をもって果たす力

### (イ) 題材の目標

- 経験したことを相手に分かりやすく話すことができる。
- 相手の話を聞いて，感想を伝えたり質問をしたりすることができる。
- 開始時刻に見通しをもって行動することができる。
- 係の仕事を理解し，役割を果たすことで自己肯定感を高める。


### (ウ) 環境づくり

**物理的支援環境** ① 教材・教具，支援ツールの効果的な配置




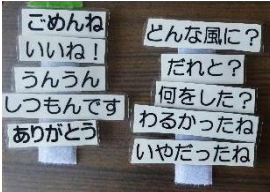
他に注意が向かないように、「発表を考える」「発表を聞く」「リアクションを返す」支援ツールを1枚にまとめた。

**物理的支援環境** ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用



リアクションの定着を図るために，取組当初は二つのリアクションカードを用いた。

**物理的支援環境** ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用



発表の内容や発表者の思いをくみ取ってリアクションできるように，複数の選択肢を設けた。

**人的支援環境** ③ 教師の役割



発表やリアクションのかかわりが円滑に行われるように，各班1名ずつSTを配置した。

**人的支援環境** ③ 教師の役割



発表内容の理解がしやすいように，STが内容をホワイトボードに示した。

**人的支援環境** ④ 児童生徒の役割



生徒がやり取りを行いやすいように，話し合いが活性化しやすい班を構成した。

### (エ) 生徒の変容(環境づくりに視点を当てて)

- ・ 取組当初は支援ツールが机上に複数あり、整理がうまくいかず、プリントが落ちてしまう場面もあったが、1枚のやり取りプリントにまとめることで、集中して友達の発表を聞くことができるようになった。
- ・ リアクションカードを2段階構成で用いることで、リアクションの定着→活用がスムーズに行うことができた。現在では選択肢にない単語を、カードを使わずに自分の言葉で適切に活用してリアクションをする姿も見られている。
- ・ S Tが各班に一名ずつ入り、発表やリアクションのかかわりが円滑に行われるための言葉掛けを必要に応じて行ったことで、聞き取りに課題がある生徒も友達の発表内容の理解がしやすく、適切なリアクションを返したり内容に合った質問をしたりすることができるようになった。班で振り返りを行ったことで、教師から肯定的な評価を得ることができ、適切なかかわり方が理解できたことも発表への意欲につながった。



〈生徒の机上〉



〈リアクションの様子〉

### (オ) 題材全体の振り返り

本学級の生徒が、卒業後の進路先での集団生活を豊かに過ごすために、必要な力は何かを考えたとき、(ア)付きたい力でも述べた三つの力が挙げた。「かかわり方が一方的になってしまうことが多いが、人とかかわることは好き」「二人以上の集団になると全体指示が理解できず周りの行動を見て動くことが多いが、一対一の短い会話は理解して聞くことができる」という生徒の実態もあり、自己肯定感や自己有用感を高め、人とのかかわりを豊かにしていくことが必要だと考え、日常的に繰り返し取り組むことができる「帰りの会」の振り返りの場面に着目した。以前から人とのかかわりを楽しむ様子はあったが、現在では会話を楽しむだけでなく、会話の主旨に沿った適切な返事を行い、生徒同士、教師と生徒の会話が弾む様子が多く見られるようになってきている。

### (カ) 指導助言

助言者 広島市教育委員会特別支援教育課 指導主事 大久保誠 様

重度・重複障害のある児童生徒の日常生活の指導について意識したい内容は、健康な体・体力を付けること、好きなこと・もの・人を増やすこと、快・不快の選択を伝えること、感謝される経験を増やすこと、生活習慣を確立すること(自立、協力動作)、1日の流れを見通し振り返ることである。快・不快の選択を伝えることは、自己選択・決定へつながるので特に大事にしてほしい内容である。

「小中学部から本校に通っているから」「発作があるから」という理由で一般就労は難しいと言われている保護者は多いが、新しいイメージをもつことが大切である。働くために必要な力は作業の正確さや早さ、態度・姿勢、技能、知識、報告・連絡・相談の定着だが、もっと大切なのは道徳性、基本的な生活習慣、体力、意欲を付けることなので意識して取り組んでほしい。